



## 平成25年12月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

平成25年10月25日

上場会社名 中外製薬株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4519 URL <http://www.chugai-pharm.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 永山 治  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報IR部長 (氏名) 内田 誠彦 TEL 03-3273-0881  
 四半期報告書提出予定日 平成25年10月31日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

### 1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績（平成25年1月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	306,533	11.2	58,160	14.4	56,722	14.6	38,984	24.2	38,164	24.2	45,746	43.0
24年12月期第3四半期	275,591	—	50,848	—	49,515	—	31,387	—	30,738	—	31,999	—

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	70.09	70.01
24年12月期第3四半期	56.48	56.46

(注) 非支配持分を除く親会社の所有者に帰属する各項目は添付資料において「当社の株主持分」と表記しております。

### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
25年12月期第3四半期	671,612	551,914	550,687	82.0
24年12月期	645,325	529,161	527,961	81.8

(注) 非支配持分を除く親会社の所有者に帰属する各項目は添付資料において「当社の株主持分」と表記しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	20.00	—	20.00	40.00
25年12月期	—	22.00	—	—	—
25年12月期（予想）	—	—	—	23.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成25年12月期の連結業績予想（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

(予想売上収益、Core営業利益及びCore EPSの%表示は対前期増減率、実績の%表示は対予想進捗率)

	売上収益		Core 営業利益		Core EPS		Core 配当性向
	百万円	%	百万円	%	円 銭	%	%
25年12月期第3四半期（実績）	306,533	73.7	59,014	76.1	70.99	76.7	—
25年12月期（予想）	416,000	7.6	77,500	2.5	92.57	8.1	48.6

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

2. 上記「連結業績予想」は、当社が定める経常的な業績を示す指標（Coreベース）に基づき予想値及び実績を算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年12月期3Q	559,685,889株	24年12月期	559,685,889株
25年12月期3Q	15,043,847株	24年12月期	15,440,438株
25年12月期3Q	544,478,311株	24年12月期3Q	544,206,790株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく要約四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 当社は、平成25年12月期第1四半期連結累計期間から国際会計基準（以下、IFRS）を適用しております。また、前年同四半期及び前連結会計年度の連結財務諸表につきましても、IFRSに準拠して表示しております。

(2) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本業績予想作成時点において入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断した目標であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれているため、実際の成果や業績は記載の予想と異なる可能性があります。

(3) 当社が公表する業績予想は、当社社内の管理指標であるIFRSのCoreベースで株主・投資家の皆さまに開示するものであります。IFRS実績とCore実績の差異については、各四半期の業績開示の中で説明を行います。

(4) 業績予想に関する事項は添付資料P. 5「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(5) 当社のCoreベースに関する詳細は「国際会計基準（IFRS）の任意適用に関するお知らせ」補足資料（<http://www.chugai-pharm.co.jp/html/press/pdf/2012/121214jSupplementaryMaterials.pdf>）P. 11-13をご参照ください。

(6) 当社は、以下のとおり投資家向け電話説明会を開催する予定です。この説明会で使用した資料、音声、Q&A等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

・平成25年10月25日（金）・・・機関投資家・アナリスト向け電話説明会

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更 .....	6
3. 要約四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	7
(2) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	9
(3) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	11
(5) 継続企業の前提に関する注記 .....	12
(6) 要約四半期連結財務諸表注記 .....	12

# 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

単位：億円

	2013年 第3四半期実績	2012年 第3四半期実績	前年同期比
<b>連結損益 (Core実績)</b>			
売上収益	3,065	2,756	+11.2%
製商品売上高 (タミフル除く)	2,797	2,604	+7.4%
タミフル	90	82	+9.8%
ロイヤルティ及びその他の営業収入	178	70	+154.3%
売上原価	△1,325	△1,206	+9.9%
売上総利益	1,740	1,550	+12.3%
販売費	△519	△487	+6.6%
研究開発費	△543	△483	+12.4%
一般管理費等	△89	△64	+39.1%
営業利益	590	515	+14.6%
四半期利益	395	318	+24.2%
<b>連結損益 (IFRS実績)</b>			
売上収益	3,065	2,756	+11.2%
営業利益	582	508	+14.6%
四半期利益	390	314	+24.2%

### <連結損益の概要 (IFRSベース) >

当第3四半期連結累計期間の営業利益は582億円（前年同期比14.6%増）、四半期利益は390億円（同24.2%増）となりました。これらには当社が管理する経常的業績（Coreベース）からは除外される無形資産の償却費7億円、事業所再編費用2億円などが含まれております。

### <連結損益の概要 (Coreベース) >

当第3四半期連結累計期間の売上収益は、薬価改定の影響及び骨粗鬆症治療剤「エビスタ」の販売提携終了の影響があったものの、製商品売上高、ロイヤルティ及びその他の営業収入がいずれも伸長し、3,065億円（前年同期比11.2%増）となりました。売上収益のうち、タミフルを除く製商品売上高は2,797億円（同7.4%増）です。

ロイヤルティ及びその他の営業収入は、マイルストーン収入の増加、ロシュ・グループ（以下、「ロシュ」という）による抗IL-6レセプターヒト化モノクローナル抗体「アクテムラ」の海外売上増加に伴う受取ロイヤルティ、プロフィットシェアの増加等により倍増しています。

売上原価は、製商品売上高の増加に加え、年初来継続する大幅な円安により、1,325億円（同9.9%増）となりました。なお、大幅な円安に伴う購入価格差異の影響をより適正に反映させるため、当第3四半期連結会計期間において原価差額の配賦方法を一部見直しております。その結果、売上総利益は1,740億円（同12.3%増）となりました。

経費については、円安影響による海外販社の経費増、新製品の発売に伴う販促活動の増加等により販売費が519億円（同6.6%増）、同じく円安影響、中外ファーマボディ・リサーチ社の活動本格化、建物・設備の更新に伴う費用の発生等により研究開発費が543億円（同12.4%増）、諸経費の増加により一般管理費等が89億円（同39.1%増）となりました。

その結果、営業利益は590億円（同14.6%増）、四半期利益は395億円（同24.2%増）となりました。なお、税制改正の影響（前年同期の一時費用発生と当期の税率引下げ）に伴い、営業利益と四半期利益の前年同期増減率の差異が大きくなっています。

※Core実績について

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とはIFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであり、ロシュが開示するCore実績の概念とも整合しております。当社ではCore実績を社内の業績管理に使用しており、Core実績を社内外に経常的な収益性の推移を説明するため、また株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用いたします。

詳細は補足資料P. 5「IFRS実績からCore実績への調整表」をご覧ください。

＜製商品売上高の内訳＞

単位：億円

	2013年 第3四半期実績	2012年 第3四半期実績	前年同期比
<b>製商品売上高</b>	2,888	2,686	+7.5%
<b>国内製商品売上高（タミフル除く）</b>	2,344	2,299	+2.0%
がん領域	1,215	1,113	+9.2%
骨・関節領域	430	469	△8.3%
腎領域	349	348	+0.3%
移植・免疫・感染症領域	139	148	△6.1%
その他領域	212	222	△4.5%
<b>タミフル</b>	90	82	+9.8%
通常	82	79	+3.8%
行政備蓄等	8	4	+100.0%
<b>海外製商品売上高</b>	453	305	+48.5%

〔国内製商品売上高（タミフル除く）〕

タミフルを除く国内製商品売上高は、「エビスタ」の販売提携終了や薬価改定の影響があったものの、抗悪性腫瘍剤/抗VEGFヒト化モノクローナル抗体「アバスチン」をはじめとするがん領域の堅調な成長と2011年に発売した活性型ビタミンD3製剤「エディロール」及び2013年5月に新剤形を発売した「アクテムラ」の寄与により、2,344億円（同2.0%増）となりました。「エビスタ」の販売提携終了の影響を除くベースでは、前年同期比7.4%増であり、引き続き好調に推移しております。

がん領域の売上は、1,215億円（同9.2%増）と引き続き増加しています。これは、「アバスチン」、抗悪性腫瘍剤/抗HER2ヒト化モノクローナル抗体「ハーセプチン」等の主力製品が順調に伸長していることによります。2013年9月にHER2陽性乳がんを適応症として発売した抗悪性腫瘍剤/抗HER2ヒト化モノクローナル抗体「パージェタ」の売上高は5億円でした。

骨・関節領域の売上は、「エディロール」、「アクテムラ」の新製品群が大きく伸長しているものの、「エビスタ」の販売提携終了により430億円（同8.3%減）と減少しました。2013年8月に骨粗鬆症を適応症として発売したイバンドロン酸ナトリウム水和物注「ボンビバ」の売上高は2億円でした。

腎領域の売上は、349億円（同0.3%増）となりました。遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤「エポジン」の売上が持続型赤血球造血刺激因子製剤「ミルセラ」への切り替えとバイオ後続品を含む競合品の攻勢により前年同期比約3割減少したものの、「ミルセラ」の売上が主に保存期市場で伸長し前年同期比約3割増加しました。

移植・免疫・感染症領域（タミフル除く）は、インターフェロン製剤の市場縮小の影響によりペグインターフェロン- $\alpha$ -2a製剤「ペガシス」、抗ウイルス剤「コペガス」の売上が減少し、139億円（同6.1%減）と減少しました。

〔抗インフルエンザウイルス剤「タミフル」について〕

通常シーズン向けの売上は、82億円（同3.8%増）となりました。一方、行政備蓄向け等の売上は、8億円（同100.0%増）となりました。

〔海外製商品売上高〕

円安影響に加え、「アクテムラ」のロシュ向け輸出が数量ベースでも伸長し、海外製商品売上高は453億円（同48.5%増）となりました。

## （２）連結財政状態に関する定性的情報

＜資産、負債及び純資産の状況＞

単位：億円

	2013年 第3四半期末実績	2012年 期末実績	前期末比
資産負債の推移			
純運転資本	1,677	1,579	+6.2%
長期純営業資産	1,443	1,500	△3.8%
<b>純営業資産（NOA）</b>	<b>3,120</b>	<b>3,079</b>	<b>+1.3%</b>
ネット現金	2,246	2,117	+6.1%
その他の営業外純資産	153	96	+59.4%
<b>純資産合計</b>	<b>5,519</b>	<b>5,292</b>	<b>+4.3%</b>
連結財政状態計算書（IFRS実績）			
資産合計	6,716	6,453	+4.1%
負債合計	△1,197	△1,162	+3.0%
純資産合計	5,519	5,292	+4.3%

純運転資本は1,677億円と、前連結会計年度末に比べ98億円増加しました。主力製品の売上規模拡大などに伴い棚卸資産が増加したこと等によるものです。また、長期純営業資産は、減価償却に伴う有形固定資産の減少等により、前連結会計年度末に比べ57億円減少し、1,443億円となりました。その結果、純営業資産（NOA）は前連結会計年度末に比べ41億円増加し、3,120億円となりました。

次項「キャッシュ・フローの状況」に示すとおり、有価証券や有利子負債を含むネット現金は前連結会計年度末に比べ129億円増加し、2,246億円となりました。また、その他の営業外純資産は繰延税金資産の増加等により、前連結会計年度末から57億円増加し、153億円となりました。

その結果、純資産合計は前連結会計年度末に比べ227億円増加し、5,519億円となりました。

### ※資産負債の推移について

連結財政状態計算書は国際会計基準第1号「財務諸表の表示」に基づいて作成しております。一方で、純営業資産（NOA）を含む資産負債の推移は、連結財政状態計算書を独自の体系として再構成したものであり、ロシュが開示する概念とも整合しております。なお、資産負債の推移にはCore実績のような除外事項はありません。

詳細は補足資料P.8「資産負債の推移＜資産、負債及び純資産の状況＞」をご覧ください。

＜キャッシュ・フローの状況＞

単位：億円

	2013年 第3四半期実績	2012年 第3四半期実績	前年同期比
フリー・キャッシュ・フローの推移			
営業利益	582	508	+14.6%
調整後営業利益	727	596	+22.0%
営業フリー・キャッシュ・フロー	550	769	△28.5%
フリー・キャッシュ・フロー	82	284	△71.1%
ネット現金の純増減	130	284	△54.2%
連結キャッシュ・フロー計算書（IFRS実績）			
営業活動によるキャッシュ・フロー	430	623	△31.0%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45	△515	△91.3%
財務活動によるキャッシュ・フロー	△231	△226	+2.2%
現金及び現金同等物の増減額	169	△118	－%
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,124	827	+35.9%

営業利益から、営業利益に含まれる減価償却費などのすべての非現金損益項目及び純営業資産に係るすべての非損益現金流入出を調整した調整後営業利益は、727億円の収入となりました。主な調整内容は、有形固定資産の減価償却費及び減損損失の118億円です。

調整後営業利益に、純運転資本等の増加66億円を減算し、さらに有形固定資産及び無形資産の取得による支出111億円を減算した営業フリー・キャッシュ・フローは550億円の収入となりました。純運転資本等の増加要因は、前項「資産、負債及び純資産の状況」に記載したとおりです。有形固定資産の取得は、主に研究機器や工場設備の購入によるものです。

また、営業フリー・キャッシュ・フローから財務管理に伴うキャッシュ・フロー、法人所得税及び配当金の支払の合計468億円を減算したフリー・キャッシュ・フローは82億円の収入となりました。

その結果、換算差額等調整後のネット現金の純増減は130億円の増加、有価証券及び有利子負債の増減を除いた現金及び現金同等物は169億円増加し、当四半期末残高は1,124億円となりました。

※フリー・キャッシュ・フローの推移について

連結キャッシュ・フロー計算書は国際会計基準第7号「キャッシュ・フロー計算書」に基づいて作成しております。一方で、当社では営業利益、営業フリー・キャッシュ・フロー（営業FCF）及び純営業資産を一体的かつ一貫性をもって定義づけ、営業FCFを内部管理に用いる指標として利用しております。また、これはロシュが開示する営業FCFの概念とも整合しております。なお、FCFは連結キャッシュ・フロー計算書を独自の体系として再構成したものであり、Core実績のような除外事項はありません。

詳細は補足資料P.9「フリー・キャッシュ・フローの推移」をご覧ください。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

2013年1月30日に公表いたしました連結業績予想から修正しておりません。

※本項において、金額は億円未満を四捨五入しております。また、増減及び％は億円単位で表示された数字で計算しております。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更  
該当事項はありません。



### 3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2012年1月1日 至 2012年9月30日)
売上収益	306,533	275,591
製商品売上高	288,765	268,609
ロイヤルティ及びその他の営業収入	17,768	6,982
売上原価	△133,191	△121,266
売上総利益	173,342	154,325
販売費	△51,992	△48,745
研究開発費	△54,373	△48,295
一般管理費等	△8,817	△6,437
営業利益	58,160	50,848
金融費用	△14	△34
その他の金融収入（支出）	△1,423	△1,299
税引前四半期利益	56,722	49,515
法人所得税	△17,738	△18,128
四半期利益	38,984	31,387
四半期利益の帰属：		
当社の株主持分	38,164	30,738
非支配持分	820	649
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益（円）	70.09	56.48
希薄化後1株当たり四半期利益（円）	70.01	56.46

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2012年1月1日 至 2012年9月30日)
四半期利益	38,984	31,387
その他の包括利益		
純損益に振り替えられない項目	—	—
純損益に振り替えられない項目合計	—	—
のちに純損益に振り替えられる可能性のある項目		
(a) 在外子会社等の為替換算差額	4,800	55
(b) キャッシュ・フロー・ヘッジに係る純変動額	1,586	—
(c) (b)について純損益に振り替えられた金額	△742	—
(d) 売却可能金融資産の公正価値の変動	2,143	717
(e) (d)について純損益に振り替えられた金額	3	135
(f) (a)～(e)に係る法人所得税	△1,028	△295
のちに純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	6,762	612
その他の包括利益合計	6,762	612
四半期包括利益	45,746	31,999
四半期包括利益の帰属：		
当社の株主持分	44,735	31,345
非支配持分	1,010	654

(2) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (2013年9月30日)	前連結会計年度末 (2012年12月31日)	IFRS移行日 (2012年1月1日)
資産			
非流動資産：			
有形固定資産	138,437	143,056	143,356
無形資産	8,386	6,500	6,548
長期金融資産	8,450	6,332	4,946
その他の非流動資産	10,391	10,921	11,316
繰延税金資産	25,089	20,735	24,042
退職後給付資産	2,147	2,680	993
<b>非流動資産合計</b>	<b>192,900</b>	<b>190,224</b>	<b>191,202</b>
流動資産：			
棚卸資産	128,571	108,413	102,834
営業債権及びその他の債権	117,220	128,306	119,506
未収法人所得税	137	344	27
その他の流動資産	7,903	6,108	4,035
有価証券	112,523	116,484	75,177
現金及び現金同等物	112,357	95,445	94,474
<b>流動資産合計</b>	<b>478,712</b>	<b>455,100</b>	<b>396,054</b>
<b>資産合計</b>	<b>671,612</b>	<b>645,325</b>	<b>587,255</b>
負債			
非流動負債：			
長期有利子負債	△203	△213	△170
繰延税金負債	△11,560	△9,963	△9,342
退職後給付負債	△798	△747	△655
長期引当金	△2,123	△1,893	△1,907
その他の非流動負債	△10,750	△8,630	△4,531
<b>非流動負債合計</b>	<b>△25,434</b>	<b>△21,446</b>	<b>△16,606</b>
流動負債：			
短期有利子負債	△41	△44	△22
未払法人所得税	△9,335	△11,437	△13,731
短期引当金	△180	△5	△273
営業債務及びその他の債務	△59,142	△60,096	△35,895
その他の流動負債	△25,567	△23,135	△21,740
<b>流動負債合計</b>	<b>△94,263</b>	<b>△94,718</b>	<b>△71,661</b>
<b>負債合計</b>	<b>△119,698</b>	<b>△116,164</b>	<b>△88,266</b>
<b>純資産合計</b>	<b>551,914</b>	<b>529,161</b>	<b>498,989</b>
資本の帰属			
当社の株主持分	550,687	527,961	497,782
非支配持分	1,227	1,200	1,207
<b>資本合計</b>	<b>551,914</b>	<b>529,161</b>	<b>498,989</b>

(3) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)	前第3四半期連結累計期間 (自 2012年1月1日 至 2012年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業活動による現金創出	75,464	62,189
運転資本の減少(増加)	△6,573	26,612
確定給付制度に係る拠出	△1,824	△2,036
引当金の支払	△149	△276
その他の営業活動	△585	893
小計	66,333	87,381
法人所得税の支払	△23,375	△25,098
営業活動によるキャッシュ・フロー	42,957	62,284
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得	△9,391	△10,925
無形資産の取得	△1,740	△490
有形固定資産の処分	△176	20
利息及び配当金の受取	282	312
有価証券の取得	△167,988	△144,116
有価証券の売却	174,533	103,891
その他の投資活動	△4	△223
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,484	△51,532
財務活動によるキャッシュ・フロー		
利息の支払	△9	△6
配当の支払	△22,672	△21,543
配当の支払—非支配持分	△983	△929
ストック・オプションの行使	653	10
自己株式の減少(増加)	△7	△3
その他の財務活動	△99	△93
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,117	△22,564
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,556	53
現金及び現金同等物の増減額	16,912	△11,759
現金及び現金同等物の期首残高	95,445	94,474
現金及び現金同等物の期末残高	112,357	82,715

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

当第3四半期連結累計期間(自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)

(単位: 百万円)

	当社の株主持分				合計	非支配 持分	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の 資本構成 要素			
<b>2013年1月1日現在</b>	72,967	64,668	397,221	△6,895	527,961	1,200	529,161
四半期利益	—	—	38,164	—	38,164	820	38,984
売却可能金融資産の 公正価値	—	—	—	1,438	1,438	—	1,438
キャッシュ・ フロー・ヘッジ	—	—	—	524	524	—	524
在外子会社等の 為替換算差額	—	—	—	4,609	4,609	191	4,800
<b>四半期包括利益合計</b>	—	—	38,164	6,571	44,735	1,010	45,746
剰余金の配当	—	—	△22,866	—	△22,866	△983	△23,850
ストック・オプショ ン	—	97	—	—	97	—	97
自己株式	—	761	—	—	761	—	761
その他	—	—	—	—	—	—	—
<b>2013年9月30日現在</b>	<u>72,967</u>	<u>65,525</u>	<u>412,520</u>	<u>△324</u>	<u>550,687</u>	<u>1,227</u>	<u>551,914</u>

前第3四半期連結累計期間(自 2012年1月1日 至 2012年9月30日)

(単位: 百万円)

	当社の株主持分				合計	非支配 持分	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の 資本構成 要素			
<b>2012年1月1日現在</b>	72,967	64,385	371,560	△11,129	497,782	1,207	498,989
四半期利益	—	—	30,738	—	30,738	649	31,387
売却可能金融資産の 公正価値	—	—	—	557	557	—	557
キャッシュ・ フロー・ヘッジ	—	—	—	—	—	—	—
在外子会社等の 為替換算差額	—	—	—	50	50	5	55
<b>四半期包括利益合計</b>	—	—	30,738	607	31,345	654	31,999
剰余金の配当	—	—	△21,768	—	△21,768	△930	△22,698
ストック・オプショ ン	—	145	—	—	145	—	145
自己株式	—	43	—	—	43	—	43
その他	—	—	102	—	102	—	102
<b>2012年9月30日現在</b>	<u>72,967</u>	<u>64,573</u>	<u>380,632</u>	<u>△10,523</u>	<u>507,648</u>	<u>931</u>	<u>508,579</u>

(5) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(6) 要約四半期連結財務諸表注記

## ①重要な会計方針等

### (a) 作成の基礎

この要約四半期連結財務諸表は、日本（東京）に所在し、東京証券取引所に上場（証券コード:4519）している中外製薬株式会社（以下、「当社」という）及びその子会社の要約四半期連結財務諸表です。この要約四半期連結財務諸表は2013年10月25日に取締役会によって承認されております。

ロシュ・ホールディング・リミテッドはスイス証券取引所に上場し、「国際会計基準」（以下、「IFRS」という）に準拠し業績を開示しているロシュの親会社であります。当社グループはロシュとの戦略的アライアンスの締結により2002年10月よりロシュの主要なメンバーになっております。ロシュ・ホールディング・リミテッドは、当社株式の発行済株式総数のうち、59.89%を所有しています。

当社グループは、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）第1条の2第1項第1号に定める「特定会社」の要件を満たすことから、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成しております。

要約四半期連結財務諸表は当社の機能通貨である日本円で表示し、百万円未満を四捨五入しております。デリバティブや売却可能な金融資産など一部の項目を除き、測定は取得原価に基づいております。

前連結会計年度までの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準（以下、「JGAAP」という）に準拠しています。JGAAPによって作成された最後の連結財務諸表は、2012年12月31日に終了する連結会計年度に係るものであります。

当社グループのIFRS移行日は、2012年1月1日であります。注記②に2012年1月1日、2012年9月30日及び2012年12月31日付のIFRS及びJGAAPの資本比較を、また前連結会計年度、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間のIFRS及びJGAAPそれぞれの四半期（当期）利益及び包括利益の比較を行っております。

この要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、この要約四半期連結財務諸表（IFRS移行日の連結財政状態計算書を含む）に記載されている全ての期間について適用された会計方針と同一であります。

### (b) 重要な会計方針

当社グループが採用したIFRSのもとでの重要な会計方針は、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2013年1月1日から2013年3月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表に記載しております。

## ②IFRSへの移行に関する開示

当社グループは、2012年1月1日から開始する連結会計年度からIFRSを適用しております。IFRS移行日は2012年1月1日です。当社グループの連結財務諸表はこれまでJGAAPに準拠しております。直近のJGAAPに準拠した連結財務諸表は2012年12月31日に終了する連結会計年度に係るものです。

ロシュは1990年からIFRSに準拠した連結財務諸表を開示しております。当社グループはロシュとの戦略的アライアンス以降、ロシュのメンバーとして、ロシュの連結財務諸表作成のための財務報告をロシュ向けに行って参りました。

当社グループは、IFRSの初度適用にあたり国際財務報告基準第1号「国際財務報告基準の初度適用」D16項(a)の規定を適用し、ロシュの連結財務諸表に含まれている当社グループの帳簿価額により資産及び負債を測定しております（ロシュが当社グループを取得した際の企業結合の影響等についての修正を除く）。

### 資本の調整

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2012年12月31日)	前第3四半期 連結会計期間末 (2012年9月30日)	IFRS移行日 (2012年1月1日)
<b>JGAAPに準拠した 連結財務諸表の純資産</b>	490,075	467,718	459,073
(a) 有形固定資産	60,784	60,444	60,420
(b) 無形資産	4,865	4,803	4,714
(c) 退職後給付関係	4,652	2,605	2,608
(d) 長期前払費用	2,060	2,178	2,534
(e) 棚卸資産	△481	△682	△2,149
(f) 繰延収益	△7,521	△2,750	△3,027
(g) 有給休暇債務	△2,946	△3,036	△2,995
その他	△179	△155	△217
(h) 繰延税金資産及び負債	△22,148	△22,546	△21,972
<b>純資産の調整額合計</b>	39,086	40,862	39,916
<b>IFRSに準拠した 連結財務諸表の資本</b>	529,161	508,579	498,989

四半期（当期）利益の調整

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (自2012年1月1日 至2012年12月31日)	前第3四半期 連結累計期間 (自2012年1月1日 至2012年9月30日)	前第3四半期 連結会計期間 (自2012年7月1日 至2012年9月30日)
JGAAPに準拠した 連結財務諸表の 少数株主損益調整前 四半期（当期）純利益	48,992	30,490	9,208
(a) 有形固定資産	1,060	718	389
(b) 無形資産	369	166	△44
(c) 退職後給付関係	208	147	49
(d) 長期前払費用	△474	△356	△119
(e) 棚卸資産	1,393	1,522	359
(f) 繰延収益	△4,640	203	83
(g) 有給休暇債務	49	△41	△3
その他	△610	△912	△64
(h) 繰延税金資産及び負債	494	△550	△496
四半期（当期）利益の 調整額合計	△2,151	896	156
IFRSに準拠した 連結財務諸表の 四半期（当期）利益	46,841	31,387	9,364

四半期（当期）包括利益の調整

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (自2012年1月1日 至2012年12月31日)	前第3四半期 連結累計期間 (自2012年1月1日 至2012年9月30日)	前第3四半期 連結会計期間 (自2012年7月1日 至2012年9月30日)
JGAAPに準拠した 連結財務諸表の 四半期（当期）包括利益	53,318	31,054	9,676
四半期（当期）利益の 調整額合計（前項参照）	△2,151	896	156
(c) 退職後給付関係	1,275	—	—
その他	46	49	△263
四半期（当期）包括利益の 調整額合計	△830	946	△107
IFRSに準拠した 連結財務諸表の 四半期（当期）包括利益	52,488	31,999	9,569

調整内容の注記

- (a) 有形固定資産（リースを除く）の減価償却方法の違いによるものであります。IFRSでは定額法を採用しております。また耐用年数についても変更しております。さらに、新たに製品を製造する場合の設備のバリデーション（性能が確保されていることを検証すること）費用について、JGAAPでは費用としておりますが、IFRSでは機械装置の取得価額の一部に含めております。
- (b) 技術導入契約等の契約金の支出について、JGAAPでは費用としておりますが、IFRSでは無形資産として資産化しております。



- (c) 確定給付型の退職給付制度から認識される資産または負債の算定における、給付の勤務期間への帰属や割引率が異なっております。また、数理計算上の差異の処理について、JGAAPでは主として発生時における従業員平均残存勤務期間以内の一定年数による定率法により、翌年度から費用としておりますが、IFRSでは発生時にその他の包括利益としております。
- (d) 製造委託先における設備のバリデーション（性能が確保されていることを検証すること）費用について、JGAAPでは費用としておりますが、IFRSでは長期前払費用として繰り延べております。
- (e) 減価償却費の違いなどにより製造原価に差異があることによる調整であります。
- (f) 技術導出契約等の契約一時金収入について、JGAAPでは一時の収益としておりますが、IFRSでは繰延収益としております。
- (g) 未消化の有給休暇についてはIFRSのみ負債として認識しております。
- (h) 上記(a)～(g)の影響により一時差異の金額が変動したこと、及び未実現利益の消去に伴う税効果の計算に使用する税率が違うことによる調整であります。

#### 2012年度の連結キャッシュ・フロー計算書に対する主要な調整項目の開示

JGAAPに準拠した連結キャッシュ・フロー計算書とIFRSに準拠して開示する連結キャッシュ・フロー計算書に、重要な差異はありません。